

# 権利擁護／虐待防止

## 事例検討編④

### ④虐待している職員への指導

# この教材のねらい

今回、配信する教材はある一つの事例を使って、さまざまな視点から考えて「虐待行為」について理解を深めていくものである。

この教材は、今までの研修の総まとめとして、虐待している職員の指導を考えていく。

# 研修の進め方①

まずは、次の事例を読み上げます。

# 事例（Aスタッフのことば）

Aスタッフは高齢者施設での介護経験が豊富で、即戦力として期待されて中途採用されました。Aスタッフ自身もそのことを十分に理解し、この施設のやり方を早く覚えようと取り組むほか、人懐っこい性格も駆使して、他のスタッフや利用者とも積極的に関わり信頼関係の構築に取り組んでいます。

Aスタッフは新しく入所してきたBさんの担当になりました。Bさんには子がいません。夫が亡くなった後はずっと一人で暮らしてきました。

Aスタッフは相談員から簡単な引き継ぎを受けた後、Bさんの居室に行き、Bさんに向き合って「Bさん、今日からよろしくお願いしますね」と挨拶しました。そして、ベッド横の床頭台に置いてある写真立てを指さし、「この写真はBさんの息子さん？」と質問しました。そのとき、Bさんの表情が一瞬くもりましたが、そのことにAスタッフは気がつきませんでした。Bさんが「いいえ、夫です」と答えると、Aスタッフは思わず「あっ！ そうだったそうだった。お子さんがいないって聞いていました。若いからてっきり息子さんかと思っちゃった！ あはは」と言ってしまう。「早くに夫を亡くしましたので……」と話すBさんに「あー、そうだったんだ。でも、イケメンの父さんだわ」と言いました。

# 事例（続き）

Aスタッフは、その後も訪室のたびに写真に向かって「父さん、待っててね。これから母さんを食事に連れて行きますから」と言ったり、「父さん、母さんをレクに連れて行きます。お留守番、よろしくお願いします」と話しかけました。

またBさんに対しても「父さんがあの世で心配しないようにリハビリがんばろうね」と言ったり、「今日は一杯食べたねー、きっと父さんもあの世で喜んでるよ」と言ったりしました。

ある日、Aスタッフがいつものように写真に話しかけて、「さあ、レクに行くよー」と言うと、突然Bさんから「あなたに夫のことを父さんなんて気安く呼ばれる筋合いはない！」と大声で怒鳴られてしまいました。

## 研修の進め方②

次の質問を参加者に投げかけます。参加人数がそれほど多くない場合は、一人ひとりに順番に答えてもらいます。

なぜ、Bさんが大声で怒鳴ったのか、その理由について考えてもらいます。

うまく答えが出てこない場合は「想像力を働かせて考えてみましょう」と投げかけます。

1) Bさんが大声で怒鳴った理由について考えてみましょう。

## 研修の進め方②

全員に答えてもらったら、グループワークに入ります。

グループワークのテーマ

この事例から、今後Aスタッフにどのような指導をすると良いのか、自分が管理職になったつもりで考えてみましょう。

☆Aスタッフへの指導というスタイルを取っていますが、ねらいはそこから自分を律する態度を身につけることです。そのため、「正解は〇〇だ」というものはありません。

\* 話しが全然違うところに飛ばなければ、話し合いの内容を修正する必要はありません。

## グループワーク(10分)

2)この事例から、今後Aスタッフにどのような指導をすると良いのか、自分が管理職になったつもりで考えてみましょう。

## 研修の進め方④

- ①話し合いが終わったら、各自でワークシートに記入してもらいます。
- ②記入してもらったら、それを一人ひとり発表してもらいます。
- ③ワークシートを回収して、全員の考え方を整理して、フィードバックして、研修は終了です。

## 個人ワーク(10分)

3) Aスタッフにはどういう指導が適切だと思えますか？

あなたならどういう指導をしますか？

ワークシートにまとめてみましょう。

# この教材を終えるにあたって

今回の研修は、Aスタッフへの指導というスタイルを取りました。

話し合ったことは他人ごとだと思わずに、常に自分の心に留めて、時々自分の言動について振り返ってみることが大切です。

お疲れさまでした。

教材作成

北海道総合福祉研究センター  
理事長 五十嵐教行